

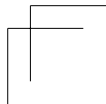
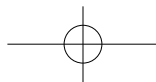
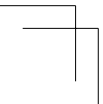
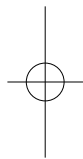
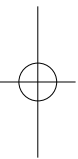
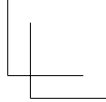
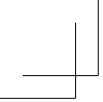
仮トビラ

雑草と呼ばないで

路傍の草花たち

えと文
佐藤 勝昭

文芸社



はしがき

道端にしっかりと根を下ろしている草花たち。

栽培種でない、希少種でないという理由で「雑草」と呼ばれ、駆除の対象になっていますが、どっこい、みんなしっかりと根を下ろして生きています。

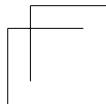
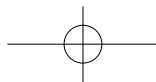
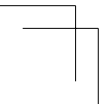
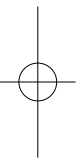
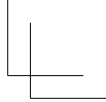
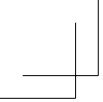
私は川崎市北部にある柿生地区に住んでいますが、犬の散歩の途中、公園、路傍、または、空き地で見つけた草花。家に持ち帰ってサインペンと水彩でスケッチ。うんちくを添えてみました。

スケッチは、その都度Facebookに掲載していますが、その際、Facebookの友達から頂いた貴重なコメントも添えました。

このスケッチエッセイが皆様の散歩のお供になることを願っています。

2015年8月吉日

著者



目次

はしがき.....3

夏

1. エノコログサ.....	6
2. オヒシバ.....	7
3. メヒシバ.....	8
4. イヌムギ.....	9
5. イヌヒエ.....	10
6. カヤツリグサ.....	11
7. カゼクサ.....	12
8. ヒヨドリバナ.....	13
9. イヌホオズキ (パカナス).....	14
10. オオニシキソウ.....	15
11. オオアレチノギク.....	16
12. ヒメムカシヨモギ.....	17
13. ヘクソカズラ.....	18
14. ヤブガラシ.....	19
15. ネジバナ.....	20
16. ウツボグサ.....	21
17. ニワゼキショウ.....	22
18. ヨウシュヤマゴボウ (セイヨウヤマゴボウ).....	23
19. オシロイバナ.....	24
20. ハンゲショウ.....	25

秋

21. トコロ.....	26
22. キツネノマゴ.....	27
23. クワクサ.....	28
24. ツルボ.....	29
25. ミズヒキ.....	30
26. イノコヅチ.....	31
27. ヒヨドリジョウゴ.....	32
28. イヌタデ.....	33
29. オジギソウ.....	34
30. カナムグラ.....	35
31. オオブタクサ.....	36
32. レモンエゴマ.....	37
33. センニンソウ.....	38
34. カントウヨメナ.....	39
35. ママコノシリヌグイ.....	40
36. アキノタムラソウ.....	41
37. ホトトギス.....	42
38. セイタカアワダチソウ.....	43
39. ハキダメギク.....	44
40. アメリカセンダングサ.....	45
あとがき.....	47



1. エノコログサ¹

「えのころ」とは犬ころのこと、「ねこじゃらし」とも。道ばたや線路わき、田畑など、どこにも見つかります。

Facebookコメント：

軽く結んだ手のひらの中に入れて、頭だけちょっと出して、もごもご動かして「毛虫」に見立てて遊びました。子ども達にも、よくそれをやって喜ばれています。(Tさん)

娘のお気に入りです。ゆえに我が家では、時に花瓶にも入ります。これは、雑草ではないです。

(Mさん)

¹ 単子葉植物 イネ科の一年草（日本に古くからあるが、アワの栽培と共に導入された外来種。アワの原種で、食用になる）
英名：green foxtail
学名：Setaria viridis



2. オヒシバ¹

根元からすくと立ち上がり、踏みつけられても折れない丈夫な茎をもち、夏の日差しも平気。アスファルトの割れ目にも育つ「草魂」の持ち主です。

道ほそし相撲取り草の花の露²

と詠まれた「相撲取り草」はこの草だという説がありますが、「オヒシバの花は目立たず露がつかないので『相撲取り草』はオオバコで、茎と茎をからめて引っ張って遊んだのではないか」というのが本書を監修していただいた藤井義晴先生のお考えです。

¹ 単子葉植物 イネ科オヒシバ属

和名：雄日芝、チカラグサ

学名：*Eleusine indica*

² 松尾芭蕉『笈日記』



3. メヒシバ¹

メヒシバは地面を茎で這って、立ち上がって穂をつけます。このため、しぶとくはびこるので、畑作業の人々にとって嫌われものです。

Facebookコメント：

子どもの頃沢山とって箒にみたてて遊んだ記憶があります。(この手の草って、とる時に気をつけないと手を切ってしまう。繊維が強いんですね)穂(花)のある真ん中の茎のところを上手に力をいれて抜くとすーっと抜けるのですが。(Tさん)

¹ 単子葉植物 イネ科メヒシバ属
(世界中に分布)。食用になる。
和名：雌日芝
学名：*Digitaria ciliaris*



4. イヌムギ¹

イヌとつくのは役立つの意味だそうですが、イヌムギは牧草として明治時代に日本に来た南米原産の帰化植物だそうです。

イヌムギは、カラスムギに似ていますが、もみ殻（穎）の先端に針のように尖った部分（芒^{イギ}という）が見られません。属が違います。

Facebookコメント：

イヌのつく植物は231種もあるそうです。どうして「犬」=役に立たない意味なのか、昔と今とでは犬との付き合い方が違ってきているのかもしれませんが。それにしても231種の名前を変えとなると、膨大な辞典の改定が必要になっちゃいますよ。(Nさん)

¹ 単子葉植物 イネ科スズメノチャヒキ属
学名：*Bromus catharticus*



5. イヌビエ¹

インド原産の帰化植物。食用のヒエは、野生のイヌビエの改良品種です。イヌビエはイネに擬態し、稲作のサイクルに見事に適応した水田雑草だそうです。

名前に「イヌ」がついていますが、小鳥にとっては重要な食料なのですよ。

¹ 単子葉植物 イネ科イヌビエ属
英名：Japanese millet
学名：*Echinochloa crus-galli* var. *caudata*



6. カヤツリグサ¹

しっかりした三角形の断面をもつ茎の先に大きな角度をもって数本の柄がでて、その先に穂がついています。

名前は、茎を引き裂いて蚊帳を吊ったような四角形を作る昔の子供の遊びに因んでつけられたということです。

Facebookコメント：

この草で蚊帳の形をつくろうとしたのですが、なかなかきれいな形にならない。簡単にはできないから子どもの遊びになったのでしょうか。(1さん)

¹ 単子葉植物 イネ目カヤツリグサ科カヤツリグサ属

和名：蚊帳吊草、莎草

英名：asian flatedge

学名：Cyperus microiria



7. カゼクサ¹

はかなげな小さな花が風にゆれます。カゼクサってさわやかな名前です。道端でよく見かける植物です。一見楚々とした風情ですが、しっかりと地面に根を張っていて引きぬけない強靱さをもっています。

Facebook コメント：

この草に、この名をつけた人の感性が素晴らしいと思います。学名の意味はわかりませんが、おそらくそれ程ロマンティックではないのかな、と推測します。

¹ 単子葉植物 イネ目イネ科スズメガヤ属

和名：風草

学名：*Eragrostis ferruginea*



8. ヒヨドリバナ¹

昔、ヒヨドリは夏は山に住み、秋になると人里にくる鳥でした。ヒヨドリがやってくる時期に白い花を咲かせるところから、この名前がついたということです。秋の七草のフジバカマ（藤袴）と同属で、花だけ見るとフジバカマとそっくりです。

¹ 双子葉植物 キク目キク科ヒヨドリバナ属
日本在来種
学名：*Eupatorium makinoi*



9. イヌホオズキ¹（バカナス）

散歩の途中、駐車場の石の隙間に生えているド根性植物に出会いました。

花は白いナス状の花びらに黄色いおしべがついており、果実は青く小さいトマトのようです。熟すと黒くなります。

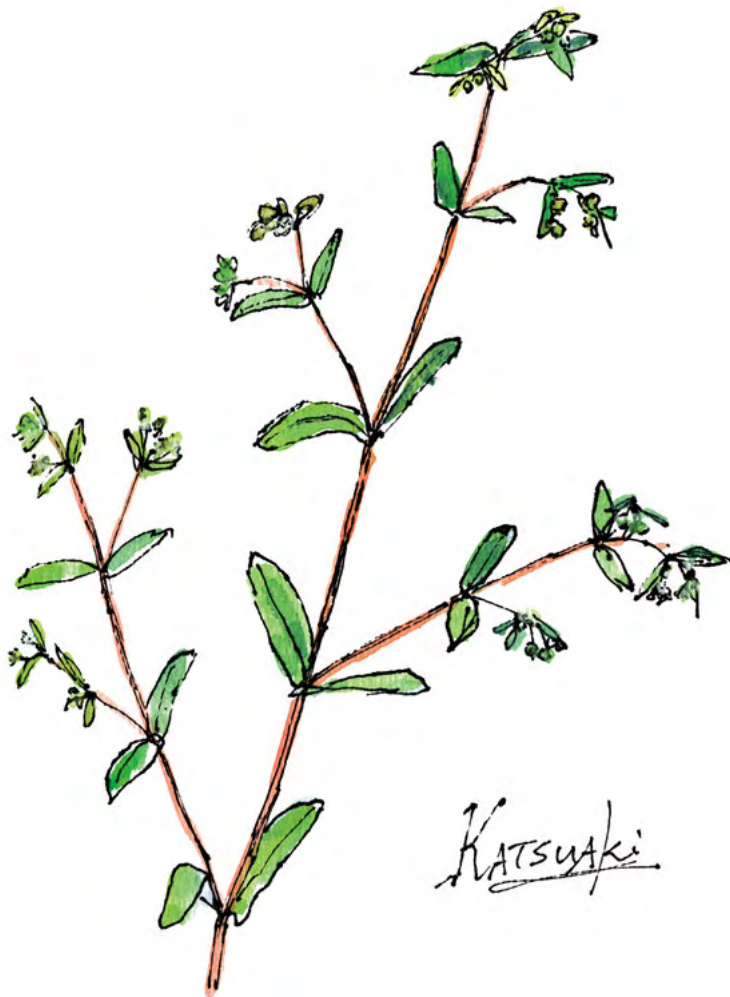
ホオズキやナスに似ていますが、自然毒のソラニンを含み食用に供することができません。役に立たないことからイヌだのバカだのかわいそうな名前がついています。

¹ 双子葉植物 ナス目ナス科ナス属

日本在来種

英名：black nightshade

学名：*Solanum nigrum*



10. オオニシキソウ¹

花は小さく1mm程度、葉は対生で10mm～20mm、この絵の部分の高さは130mm程度、じつに小柄な植物です。帰化植物で、嫌われ者のようですよ。

コニシキソウというのもあります。同じトウダイグサ科ですが、なんと地面を這うような小さな植物です。

Facebookコメント：

ふっと見過ごしそうな花ですね。こういう植物もしっかり生きていますね^^ (Sさん)

¹ 双子葉植物 トウダイグサ目トウダイグサ科
トウダイグサ属
学名：*Euphorbia*



KATSUAKI

11. オオアレチノギク¹

道端でよく見かけるキクの仲間です。はじめ、ボロギクとと思っていましたが、図鑑で調べてみるとオオアレチノギクとわかりました。

日本生態学会によって日本の侵略的外来種ワースト100に選定されており、外来生物法にて要注意外来生物にも指定されているお尋ね者だそうです。

¹ 双子葉植物 キク目キク科イズハハコ属
外来種
学名：*Conyza sumatrensis*

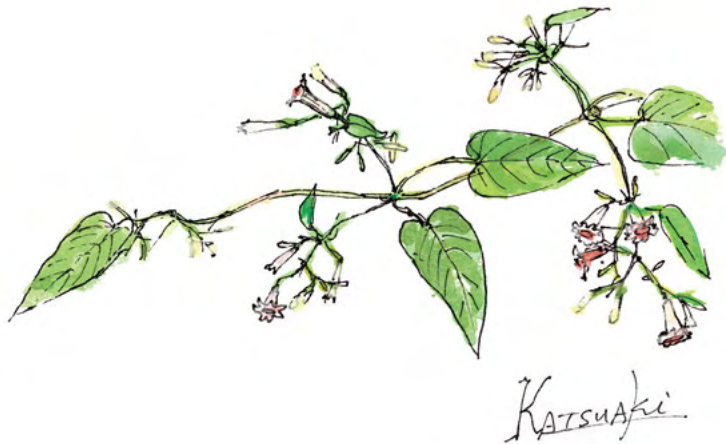


12. ヒメムカシヨモギ¹

草姿はオオアレチノギクに似ていますが、目立たない控えめな花をつけています。葉縁部に白色の長毛がまばらに生えていて、葉を触るとザラザラとした手触りがします。

明治維新のころから鉄道に沿って広がったため、ゴイッソウ、メイジソウ、テツドウグサなどとも呼ばれたという帰化植物で、要注意外来生物に指定されています。

¹ 双子葉植物 キク目キク科イズハハコ属
外来種
学名：*Conyza canadensis*



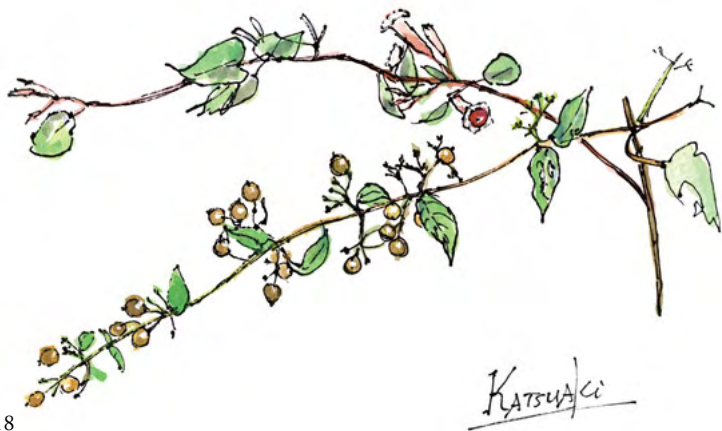
13. ヘクソカズラ¹

近所の垣根にまきついているつる性の植物。花は小さく可憐です。悪臭があるためヘクソというかわいそうな名前がついていますが秋になる実が漢方薬に使われる有用な植物です。

Facebookコメント：

馬食わずとも呼ばれるんだそうですね。とすると、自衛のための進化でしょうか。名前の付け方も人間はまあ、勝手です。しかし、花言葉が「人嫌い」とは.....。

先生の絵だと、好きになつてしまいますが。絵は臭わないから？（Kさん）



¹ 双子葉植物 リンドウ目アカネ科ヘクソカズラ属のつる性多年草（別名：ヤイトバナ、サオトメバナ）

日本在来種

学名：*Paederia scandens*



14. ヤブガラシ¹

やぶを覆って枯らしてしまうほどの生育の旺盛さを持ちます。庭にあると貧相に見えるのでピンボウカズラともいいます。

夏の終わりにオレンジ色の地味で可憐な花をつけ、初秋に赤い実をつけます。

若芽は茹でてあく抜きすると、^{ウレンボ}烏斂蓐^ホといって、利尿・解毒・鎮痛などに効く生薬になります。

¹ クロウメモドキ目ブドウ科ヤブガラシ属
日本在来種
学名： *Cayratia japonica*



15. ネジバナ¹

道端で見つけたネジバナ。花序が螺旋状についていてかわいい。モジズリともいいます。

「みちのくの のぶもちずり 誰ゆえに 乱れそめにし
我ならなくに」(百人一首)

Facebookコメント：

あ、この花、ネジバナって言うのですね。大学の駐車場に咲いていて、雑草ながらかわいいな~と思っていました。(Mさん)

たまにねじ花見ます。不思議な花のつき方、面白いです。すてきなデッサンと思います。(Kさん)

¹ 単子葉植物 ラン目ラン科ネジバナ属の多年草
日本在来種
学名：*Spiranthes sinensis*



16. ウツボグサ¹

草むらに紫色の花穂が目立ちます。花穂が弓矢を入れる鞞ウツボに似ていることからこの名がついたそうです。

花穂は夏枯草カゴソウという生薬になり、利尿、消炎に効くといわれます。

¹ 双子葉植物 シソ目シソ科ウツボグサ属の多年草

日本在来種

学名：*Prunella vulgaris* subsp. *asiatica*



17. ニワゼキショウ¹

駐車場で見つけたニワゼキショウ。痩せ地でよく見かける植物です。アヤメの仲間、花弁の数は6弁です。北アメリカ原産で、明治時代中期に鑑賞用として輸入されたものが野生化して帰化したということです。

¹ 単子葉植物 ユリ目アヤメ科ニワゼキショウ属の一年草
外来種
和名：庭石菖
学名：*Sisyrinchium rosulatum*



18. ヨウシュヤマゴボウ¹ (セイヨウヤマゴボウ)

高台にある住宅地の崖の斜面に生えるたくさんの野草のなかでひとときわ存在を誇示しているのがヨウシュヤマゴボウです。

秋には、ぶどうのような房をもった果実ができますが、この赤い汁は、手や服につくとなかなかとれません。根、葉、果実に毒性があり、有害で危険です。

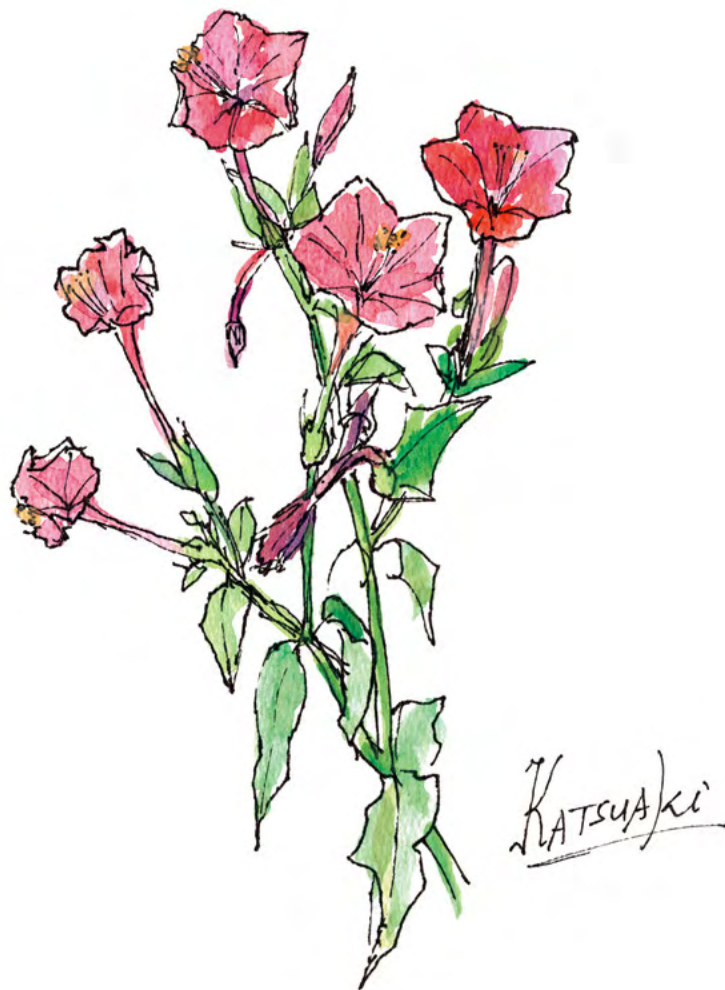
Facebookコメント：

小学校1年のとき、学校の授業で、これでハンカチを染めた。こういう経験は、忘れないものですよね。(Mさん)



¹ 双子葉植物 ナデシコ目ヤマゴボウ科ヤマゴボウ属の多年草
外来種

学名：*Phytolacca americana*



19. オシロイバナ¹

道端によく見かける南米原産の帰化植物。江戸時代は
じめ頃に渡来したそうです。夕刻に花を開くことから英
語では、Four o'clockと呼ばれます。

Facebookコメント：

私が大好きな花です。においが好き。この植物はもの
すごーく大きくなるのに、確か一年草なのですよ。お
花は色水、種はそれこそおもしろいにして遊びました。(T
さん)

オシロイバナ懐かしいですね。最近あまり見かけなく
なったけど、ちゃんとあるんですね^^ (Sさん)

¹ 双子葉植物 ナデシコ目オシロイバナ科オシロイバナ属の一
年草または多年草
外来種
学名： *Mirabilis jalapa*



20. ハンゲショウ¹

半夏生の頃、近くの公園で見付けました。穂状の花序が葉の付け根にあり、花のすぐ下の葉の表面が白く変化し花弁の役目を果たしています。名前の由来は、半夏生の頃に花を咲かせることによるという説と、葉の一部を残して白く変化するため半化粧とする説があるそうです。

Facebookコメント：

この花は粋な感じがします♪ さりげなくオシャレな感じで(^^)

¹ 双子葉植物 コショウ目ドクダミ科ハンゲショウ属の多年性
落葉草本植物
日本在来種
学名：*Saururus chinensis*



21. トコロ¹

公園のフェンス付近のノイバラの枝に絡みついていた。

漢字の「野老」は、根の“ひげ根”を老人の“ひげ”に見立てて、海の「海老」に対して 山野の「野老」ということでこの名になったということです。

所沢の地名の由来は諸説ありますが、市章は「野老」^{トコロ}の葉を図案化したものを使っています。

¹ 単子葉植物 ユリ目ヤマノイモ科ヤマノイモ属
和名：トコロ（野老）
学名： *Dioscorea tokoro*



22. キツネノマゴ¹

直径4mmくらいの小さな花、楚々とした存在です。

キツネノマゴの名前の由来は、花の形がキツネの顔に似ているからなどといわれますが、よくわからないようです。

Facebook コメント：

絵のほうがずっといいです！ 写真ではうまく撮影できない。(Iさん)

¹ 双子葉植物 シソ目キツネノマゴ科キツネノマゴ属の一年草
学名：*Justicia procumbens*



23. クワクサ¹

道端で見つけた小さな植物

葉は裏が白っぽくクワの葉にそっくり。桑の草バージョン。目立たない紫色を帯びた緑色の花を咲かせます。

Facebookコメント：

この名前は知りませんでした。もっと道端の雑草に目を向けられる自分になりたいです。(Nさん)

葉の形が桑に似てますね。実はならないんでしょうね。(Tさん) →実もなるようです。

¹ 双子葉植物 クワ科クワクサ属の一年草
(日本在来種。北米に進出して雑草化している)

和名：桑草

学名：*Fatoua villosa*



24. ツルボ¹

秋になると、公園のフェンスのそばに紫の花が集団で現れるかわいい草。根っこに球根が見つかりました。それで宿根草のように毎年咲くのですね。園芸種はシラーと呼ばれているそうです。

¹ 双子葉植物 クサスギカズラ目クサスギカズラ科ツルボ属
(最近の研究でユリ科からクサスギカズラ科に変わりました)

日本在来種

和名：蔓穂

学名：*Barnardia japonica* var. *Scilla scilloides*



25. ミズヒキ¹

小さな花、よく見ると上半分はピンクで下半分は白なので、祝い事に使う水引に似るとしてこの名前がついたとか。

キンミズヒキはバラ科なのでミズヒキとは別種です。

Facebook コメント：

ミズヒキ、いいですね。一輪ざしにそっと生けても素敵です♪ (Sさん)

¹ 双子葉植物 タデ目タデ科イヌタデ属
日本在来種
和名：水引
学名：*Persicaria filiformis* var. *Antenoron filiforme*



26. イノコヅチ¹

果実は、犬などの動物の毛にくっついて移動します。
ペットの飼い主から嫌われています。

¹ 双子葉植物 ナデシコ目ヒユ科イノコヅチ属の多年草
日本在来種
和名：猪子槌
学名：*Achyranthes bidentata* var. *japonica*



27. ヒヨドリジョウゴ¹

つる性で垣根の木に絡みついて繁茂する寄生植物です。かわいい赤い実が、食料の少ない冬になるまで実が残っているので、ヒヨドリのご馳走になります。ソラニンを含むので人間は食べられませんが、漢方では「白毛藤」という生薬になります。

¹ 双子葉植物 ナス目ナス科ナス属
日本在来種
和名：鴨上戸
学名：*Solanum lyratum*



28. イヌタデ¹

秋に穂を出し、小さな花をいっぱいつけます。花が終わると赤い小さな果実ができます。この実を赤飯に見立て、ままごと遊びに使ったことから、アカマンマとも呼ばれるそうです。

香辛料に使う柳蓼^{ヤナギタデ}に比べて辛さがなく役に立たないことからイヌタデの名がついたということです。

¹ 双子葉植物 タデ目タデ科イヌタデ属の一年草
日本在来種
和名：犬蓼
学名：*Persicaria longiseta* var. *Polygonum longisetum*



29. オジギソウ¹

葉は鳥の羽根状の複葉で、手で触ると、あっという間に小葉が先端から一対ずつ順番に閉じ、葉全体がお辞儀をするように垂れ下がります。夜になると葉が閉じて眠ります。

学名はミモザ。ギンヨウアカシアのことをミモザと誤用されますが、オジギソウが元祖ミモザです。

¹ 双子葉植物 マメ目マメ科ネムノキ亜科オジギソウ属
(南米原産。熱帯～亜熱帯アジアで雑草として嫌われる)
和名：お辞儀草、含羞草
学名： *Mimosa pudica*



30. カナムグラ¹

葉はのこぎり歯状で、表面はざらざらしています。茎から葉柄にかけてある鋭いとげで木などに絡みつきます。

多数の淡緑色の花がついている茎は雄株で、先端に穂状の花をつけるのは雌株だそうです。

万葉集に出てくるヤエムグラは、このカナムグラを指すのだそうです。

¹ 双子葉植物 イラクサ目アサ科カラハナソウ属
(日本在来種。園芸用として米国に進出して雑草化)
和名：鉄葎
学名：*Humulus japonicus*



31. オオブタクサ¹

1952年に北米から大豆に付着して日本に侵入した帰化植物で、ブタクサとともに花粉症の原因として知られ、要注意外来生物に指定された「嫌われ者」です。

Facebook コメント：

愛嬌は感じられませんが、したたかそうなところがいいですね。1952年とずいぶん特定されているところも面白い。

『1493』という本があり、コロンブスにより米国大陸と他の地域がつながった結果、世界でさまざまな大変動が起きたことが記されています。これなんかその最後でしようか。(Kさん)

¹ 双子葉植物 キク目キク科ブタクサ属

(3mに達し大群落を作る)

外来種

和名：大豚草

学名：*Ambrosia trifida*



32. レモンエゴマ¹

道端にシソみたいな葉っぱの植物を見ました。はじめ、ナギナタコウジュではないかと思いFacebookに載せましたら、レモンエゴマではないかというご指摘をいただきました。

レモンの香りがして全体の姿がエゴマに似ているところから名がついたそうです。

¹ 双子葉植物 シソ目シソ科シソ属

日本在来種

和名：檸檬荏胡麻

学名：*Perilla frutescens* var. *citriodora*



33. センニンソウ¹

よく見かけるつる性の植物。多数の白い花をつけます。4枚の花弁に見えるのはガク片で、本当の花弁はありません。果実についた白い毛を仙人のヒゲに見立ててこの名が付いたそうです。葉にプロトアネモニンを含み、汁が手につくとかぶれるので要注意です。

Facebook コメント：

はかなげな風情が、秋の一抹のさびしさを感じさせますね。(Kさん)

趣がありますね。(Nさん)

¹ 双子葉植物 キンボウゲ目キンボウゲ科センニンソウ属
日本外来種
和名：仙人草
学名：*Clematis terniflora*



34. カントウヨメナ¹

路傍によく見かける背の高い野菊です。薄紫色の花が清楚です。葉の縁にはのこぎりの歯のようなギザギザがあり、触るとザラザラします。ユウガギクに似ていますが、ユウガギクより葉っぱが狭いので区別できます。

Facebookコメント：

とても素敵な絵ですね。紙の色と絵の色やタッチがあっっていて、涼しい秋風を感じます。(Kさん)

¹ 双子葉植物 キク目キク科ヨメナ属の多年草
日本在来種
学名：*Kalimeris pseudoyomena*



35. ママコノシリヌグイ¹

路傍の可愛いピンクの花をつけた草。茎、葉の柄や葉の裏にもとげがあります。このため、憎い継子の尻をぬぐうという発想となったということです。

Facebookコメント：

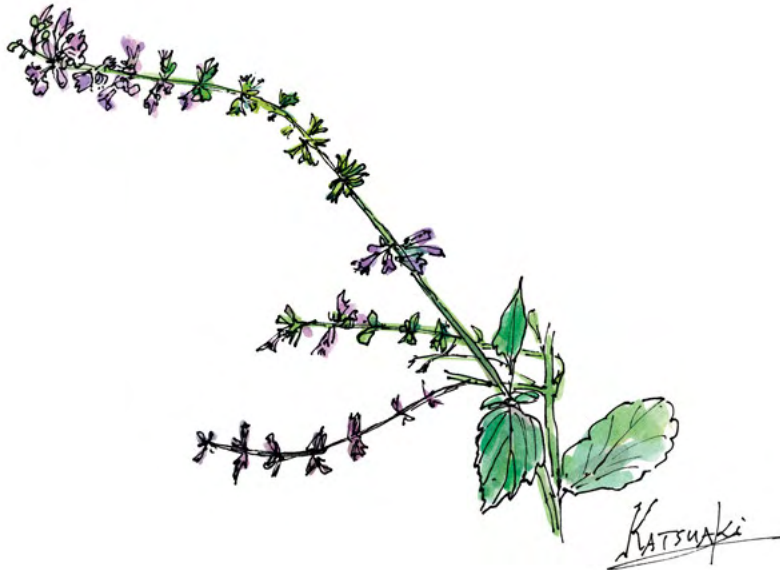
継子の尻拭いとはなんと痛ましい。旧い家族制度の暗い歴史が野草の名前として残されたのですね。(Kさん)

こわい名前ですね～。(Sさん)

¹ 双子葉植物 タデ目タデ科イスタデ属
日本在来種
和名：継子の尻拭い
学名：*Pericaria senticosa*

36. アキノタムラソウ¹

まばらな林の中で草丈30cm～50cmほどの花序の長い草を見つけました。初秋に、花茎をやや斜にして、淡い青紫色の小さな花が数段にわたって輪生します。



¹ 双子葉植物 シソ目シソ科アキギリ属の多年草
日本在来種
和名：秋の田村草
学名： *Salvia japonica*



37. ホトトギス¹

林の日当たりの悪い場所に、ひっそりと咲いている6弁の花。葉は互生で、葉脈が縦に走る。名前の由来は、鳥のホトトギスと同様の斑点によるとか。

Facebookコメント：

ホトトギスという草花がある！ 知りませんでした、といってもほとんど知らないといってもよいのですが、トホホ……それにしても構図といい、躍動感、色づかい、お見事です！！（Mさん）

¹ 単子葉植物 ユリ目ユリ科ホトトギス属の一年草
日本在来種（固有種）
和名：杜鵑草
学名：*Tricyrtis pilosa*



38. セイタカアワダチソウ¹

北アメリカ原産、日本では切り花用の観賞植物として導入された帰化植物です。当初、「花粉症の原因」という汚名を着せられましたが、虫媒花なので、花粉が飛散しないことから、いまでは無関係とされます。

Facebookコメント：

これは強いというか、どこにでもありますね。河川敷とか空地には必ずといっていいくらい。でも、小さ目の花は生け花にも使えるので、まあいいかって花ですね。(Kさん)

¹ 双子葉植物 キク目キク科アキノキリンソウ属の多年草
(外来種。要注意外来生物に指定されています)

学名：*Solidago canadensis* var. *scabra* var. *Solidago altissima*



39. ハキダメギク¹

牧野富太郎博士が世田谷の掃きだめで見つけたので、このような気の毒な名前がついたとか……。

Facebook コメント：

掃溜めで健気に咲く小さな花、こういうの好きです。
(Kさん)

牧野博士が「見つけた」菊ですが、一度認識すると今至るところで花を咲かせていることに気づきますね。小さいのに花びらが三裂しているのがおもしろい。脚下照顧。(Iさん)

牧野富太郎博士のフィールドが世田谷の掃きだめに及んでいたとは。牧野博士から、川崎(周辺の丘陵地帯)に自生し絶滅が危惧されるタマノカンアオイを思い出しました。(K'さん)

¹ 双子葉植物 キク目キク科コゴメギク属の一年草
(南米原産の外来種です。ブラジルでは花の形から金のボタンと呼ばれます)

学名：*Galinsago quadrivadiata* var. *Galinosoga ciliata*



40. アメリカセンダングサ¹

アメリカ原産の帰化植物。道端、空地に生える。種子は扁平で先端に棘があり、これに小さな逆歯がついており、服やセーターなどにくっついて嫌われる「ひっつき虫」である。

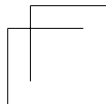
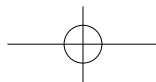
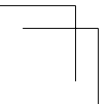
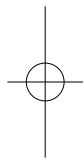
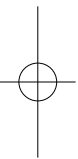
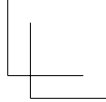
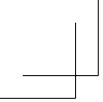
Facebookコメント：

ひっつき虫、なつかしいです！ほんと、とげとげが食い込んでなかなか取れなかったなあ。(Kさん)

山梨に親戚があり、子供の頃、秋の河原で遊んで、服に種子が付くと「バカが付いた」と言われたものです。特にこの種子がセーターに付くと取りにくく思い出に残っています。(K'さん)

¹ 双子葉植物 キク目キク科センダングサ属の一年生草本
外来種

学名：*Bidens frondosa*



あとがき

昭和天皇の侍従を長く務めた入江相政さんが編まれた『宮中侍従物語』（角川書店）によると、ある秋、入江さんは、陛下が那須の御用邸から皇居に戻られる前にお庭に茂る野草を刈り払わせたという。ところが、那須からお帰りになった陛下は、「どうして庭を刈ったのかね」とお尋ねになる。「雑草が生い茂ってまいりましたので、一部お刈りいたしました」と答えると、陛下は、「雑草ということはない。どんな植物でも、みな名前があって、それぞれ自分の好きな場所で生を営んでいる。人間の一方的な考え方でこれを雑草としてきめつけてしまうのはいけない。注意するように」とお叱りになったということです。

わたしは、路傍の野草をスケッチするとき、このエピソードを思い起こします。草たちは訴えています。「雑草と呼ばないで」

わたしは、物理学を専門とする科学者ですが、植物の分類については、詳しくありません。各項目の脚注に記した分類学上の記載については、東京農工大学に勤めていたご縁で知り合った植物生態学の専門家、藤井義晴教授にチェックしていただきました。ここに感謝します。

著者プロフィール

佐藤 勝昭（さとう かつあき）

洋画家であると同時に応用物理学の研究者。

一般社団法人「日本画府（日府展）」理事（洋画部審査員）を務める。

銀座の詩季画廊、新百合ヶ丘のギャラリー華沙里などにおいて13回の個

展を開くなど、精力的な創作活動を行っている。

『美術年鑑』（美術年鑑社）の洋画家の項目に収載。

東京農工大学名誉教授（工学博士）。

画歴

- ・小学校5年より伊藤継郎の児童画教室で油彩を手がける。
- ・高校で岡島吉郎に学ぶ。
- ・前職（NHK）美術部で中島哲朗、樋渡清二に師事。

雑草と呼ばないで 路傍の草花たち

2015年9月15日 初版第1刷発行

えと文 佐藤 勝昭

発行者 瓜谷 綱延

発行所 株式会社文芸社

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-10-1

電話 03-5369-3060（編集）

03-5369-2299（販売）

印刷所 図書印刷株式会社

©Katsuaki Sato 2015 Printed in Japan

乱丁本・落丁本はお手数ですが小社販売部宛にお送りください。

送料小社負担にてお取り替えいたします。

ISBN978-4-286-16514-1